

# 基盤整備の有効性に関する調査報告の概要

平成22年2月  
北海道農政部

- ・ 全道631ほ場で主要な作物を調査
- ・ 農作物の収量、品質のほか、防除、収穫など作業性についても調査

## 畑作物・牧草 暗きょ排水・排水路の整備により湿害を大きく抑制

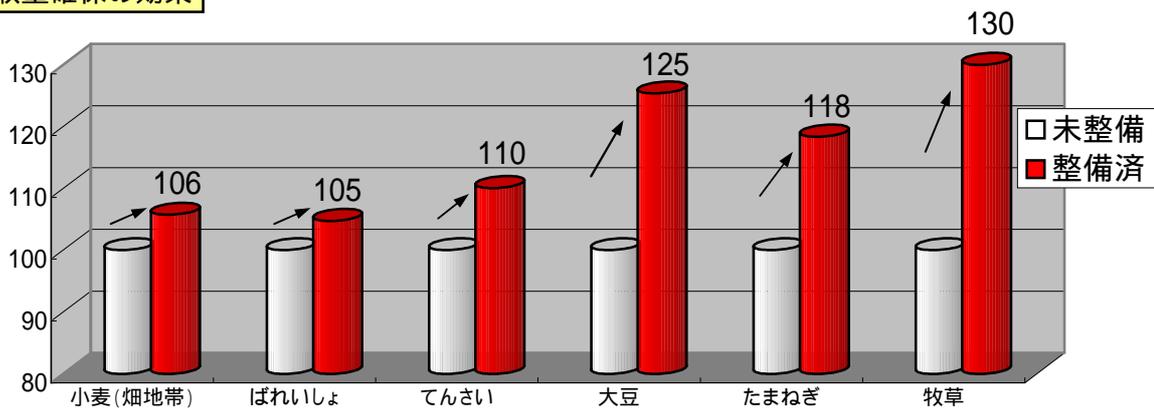
整備済みほ場では

- ・ 多湿による生育不良を軽減
- ・ 適期に農作業が可能



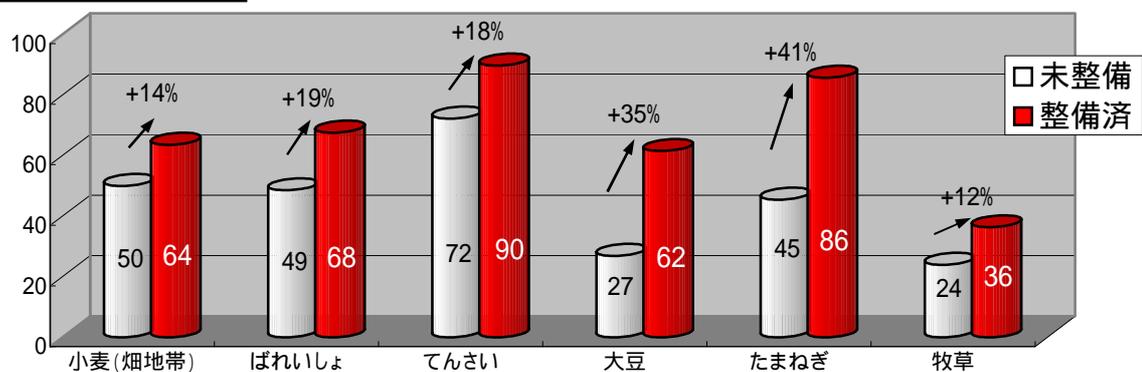
- ・ 収量・品質の低下を抑制
- ・ 農作物の安定生産に大きな貢献

### 収量確保の効果



整備済みほ場と未整備ほ場との収量比較(未整備を100として計算)

### 品質低下抑制の効果



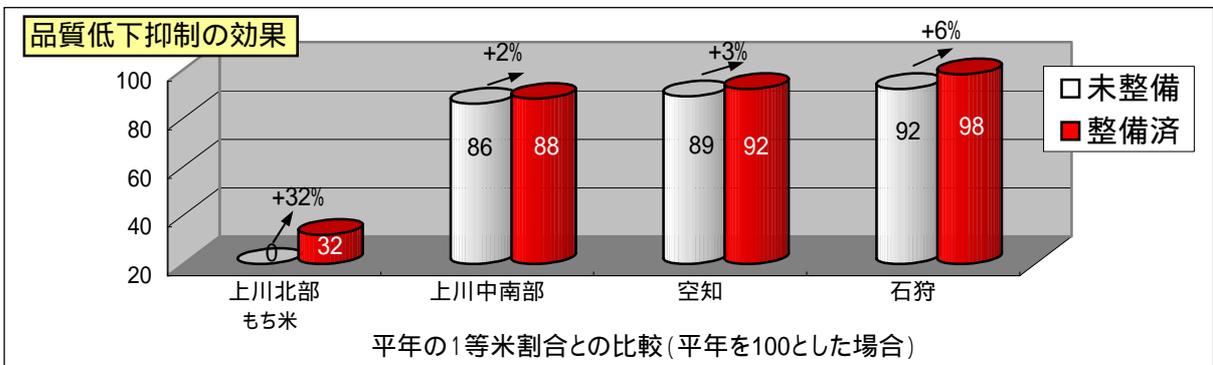
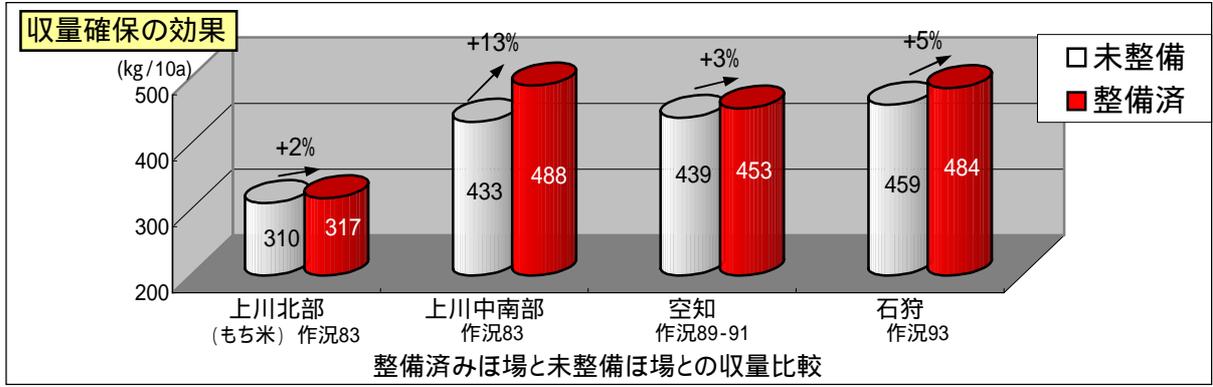
品質の低下がなかったほ場の割合(平年を100とした場合)

# 水稻 <sup>ふかみず</sup>深水管理 (<sup>ふかみず</sup>深水かんがい) により冷害を軽減

整備済みほ場では  
・ 低温による生育不良を軽減

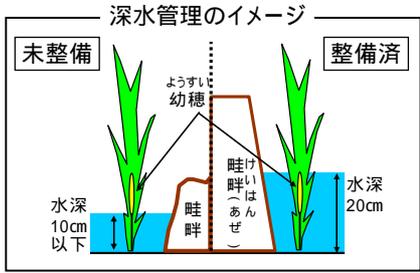


・ 収量・品質の低下を抑制  
・ 美味しい道産米の生産を下支え

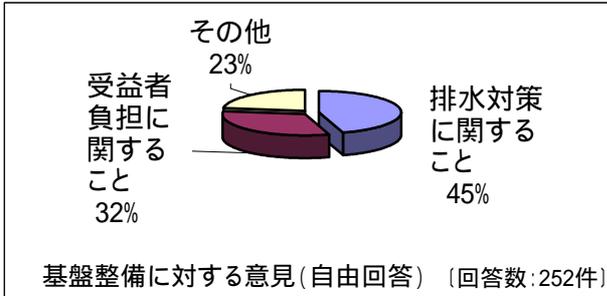


## 深水管理とは

深水管理とは、低温期に気温よりも水温の方が高いことを利用して、水田に通常よりも水を多く貯め、低温による水稻の生育障害を回避するための水管理方法。  
このためには、畦畔(あぜ)や用水路の整備が不可欠。



## 農家の意見



- < 主な意見 >
- ・ 暗きょ排水と排水路の一体的整備
  - ・ 個々のほ場条件に応じた、よりきめ細やかな整備
  - ・ 低コスト工法の導入などによる農家負担の軽減
  - ・ 小規模で機動的にできる事業の実施

本調査結果や農家のご意見などを踏まえながら、基盤整備の有効性について啓発を図るとともに、ほ場条件に合った弾力的な整備や事業コストの縮減などの課題に取り組み、事業の効果的な推進に努める。